

「できること」で、サポートを！

「お時間があるときに」「5分でも」子どもたちの様子等を見ていただきたい。
そのうえで、ご意見やご提言をいただきたい。という話を13日（土）にしました。
早速、「今までだったら、それは学校だけで、できよかったが・・・？」というご指摘もいただいています。

この『今までだったら』が、時代の流れ（グローバル化・技術革新等）や社会の変化（少子高齢化・働き方改革・価値の多様化等）の影響で通用しにくくなってきています。
少しずつでも、皆さん（職員含む）の「できること」を活かした「地域の中の学校（コミュニティ・スクール）」づくりの一步を踏み出したいと考えています。

【朝の時間に（読み聞かせ）】



実際、現在の学校では
家庭科（裁縫・ミシン）授業での児童への個別支援
体育・図工科等の授業の児童見守り（教える必要なし）
昼休みや清掃、村内巡回学習等の児童見守り
椎葉の今・昔、文化を語る
自らの仕事・人生観を語る（現在6年生で実施中！）
といった方々を必要としています。
「ちょっと来てみたっちゃけど・・・」のひと言から始めてみませんか？

学校でないところでも・・・

「通学バスの中が、さわがしい。」「放課後子ども教室での学習に集中していない。」
記録を見てみると、昨年度とほぼ同様の時期に同じようなことが起こっています。

コロナ禍もひと段落、子どもたちは、通学・学校・放課後という一連の生活に「慣れ」を覚え、その「慣れ」が「ゆるみ」を生み、不適切な言葉や行動につながっているようです。
「ビシッ！」と叱るのも手立て、「どう過ごしたらいいか？」じっくり時間をかけて考えさせるのも手立て。

「学校での指導が、学校でないところでも活きる」、児童自らが適切な言動ができるよう、しつこく声をかけているところです。

ご家庭でも「バスの中ではどうやって過ごす？」「放課後子ども教室は、遊ぶところかね？」といった言葉かけをよろしくお願いします。

校長のつぶやき

網戸にしておけば、天然の涼しい風が流れ込む住宅。
泥棒さんは困りますが、2匹程度の蚊の侵入は計算のうちで、
「今年もクーラーなしでいけそうだな」と、勝手にやせ我慢を決め込んでいる2年目の夏です。
（誤解のないように言っておくと、「扇風機」はあります。
これがない「風呂上がり」は、汗まみれです・・・。）

